

## 橋本泰元 先生

橋本泰元先生は、埼玉県の真言宗豊山派の寺院のお生まれで、一九九三年に本学文学部印度哲学科助教、二〇〇〇年に教授に就任され、東洋学研究所には本学着任後すぐに研究員として所属され、二〇二二年から二〇二四年にかけては東洋学研究所第二八代所長を務められ、研究発表会、講演会の開催、紀要の刊行など本研究所の運営、活動にご尽力されました。学術的な活動は多岐にわたりゴラクナート語録研究などの個別研究や、ヒンドゥー教の「共生」思想研究などの総合研究などがあります。インド国立バナーラス・ヒンドゥー大学へ留学され、シルクロード文化研究所や外務省のヒンディー語講師を務められ、また、東京外国語大学、大正大学、東京大学などで非常勤講師を歴任されるなど、精力的に活躍されております。

橋本先生のご専門は、インドのヒンドゥー教・ヒンディー文学・バクティ思想であり、二〇〇五年三月には『インド中世民衆思想の研究』（二〇〇六年ノンブル社、全五八二頁）で博士号学位論文を取得されております。共同研究には「ヒンディー・ウルドゥー韻律のリズム構造の解明―ペルシア起源説の検証をとおして―」（二〇〇八年～二〇一〇年科研費）などがあり、またご著書には『宗教詩ビージャクレーインド中世民衆思想の精髓（東洋文庫）』（平凡社 二〇〇二年）や『ヒンドゥー教の事典』（共著・東京堂出版二〇〇五年）他多数がありますが、ヒンドゥー教とその文化について宗教的、思想史的な観点も含んだ名著として、仏教を通して日本文化の基層にも影響を与えたヒンドゥー教の水脈へとつながる意義深い内容です。

また先生の御活動の一つとして真言宗豊山派の住職というご経歴がありますが、一九九二年には豊山教学振興会賞（教祖部門）を受賞されております。学内においては東洋大学伝統文化講座TDBプロジェクトではながく聲明公演のご担当責任者として真言宗豊山派迦陵頻伽聲明研究会などによる「大般若転読会」の開催に尽力され、学問のみならず教育の現場でも、豊山派の伝統ある宗教的文化的行事を披露されました。そのお人柄は温厚この上なく、常に静かな語り口で、その内側には豊かな見識と熱意を隠しつつ、優しい物腰と誠実に物事に対する立場は周囲を引き付けてやまない魅力にあふれております。ロシアの研究者が突然東洋学研究所を訪問した折など、両者は英語の会話を突然ヒンディー語に変えて議論をつづけるなど周囲を驚嘆させた思い出がございます。先生は本学文学部の教授職を令和六年二月で定年退職されますが、来年度以降も本研究所の客員研究員として研究活動にご協力いただくことになっております。これからも後輩の私たちにこそ指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

橋本泰元先生の益々のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

二〇二四年（令和六年）三月一日

東洋大学 東洋学研究所 所長 原田 香織

